

CASBEE[®] 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都学園大学京都太秦キャンパス工学部棟(仮称)建築計画	階数	地上8F
建設地	京都府京都市右京区山ノ内五反田町18番地 他	構造	S造
用途地域	近隣商業地域準防火地域	平均居住人員	800 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,600 時間/年(想定値)
建物用途	学校集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2018年7月31日
敷地面積	32,542.97 m ²	作成者	田原 正寛
建築面積	5,941.87 m ²	確認日	2018年8月1日
延床面積	24,498.02 m ²	確認者	塚本 幹夫



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 本施設は、新たに新学科(工学部)新設にともなう新棟建設の計画である。空地部分は地区施設として地域開放を行う。建物のファサードは分節したデザイン及び既存棟のファサードと調和した計画とした。室内環境は十分な天井高さを確保し豊かな修学環境を整えている。		その他 計画建物で修学・研究される内容は多岐に渡り、その何れもが工学の向上を目指すものであるが、同時に省エネルギー化にも繋がっている。このため、計画建物で行われる活動そのものが地球環境の向上に寄与すると考える。
Q1 室内環境 音環境、温熱環境等については実習室、各研究室ごとに部屋の特性によりきめ細かに環境条件を整えるよう配慮した。空気室環境については建築基準法規制対象外となる建築材料の使用を極力使用しないよう努力した。	Q2 サービス性能 各室について可能な限り天井高を確保するなど、空間的ゆとり確保に注力した。また、設備の更新をできるだけ簡易に行えるよう工夫した。	Q3 室外環境(敷地内) 地域開放された広場へ、周辺住民のアプローチを誘導できるような緑化計画を行っている。
LR1 エネルギー 建物外皮は省エネルギーに寄与する材料を選定した。自然エネルギーの利用については外壁面からの自然光の取り入れを計画するとともに太陽光による発電設備を設けた。	LR2 資源・マテリアル 可能な限り非再生性資源の使用量削減に努めるとともに地域産木材の利用に取り組んだ。	LR3 敷地外環境 建物を敷地境界からできるだけ離す計画とし、近隣への配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される